

土曜

SATURDAY

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医の

カルテ



53



廣瀬動物病院長

(富山市石坂新)

廣瀬 僚

ある日、乳頭部分にコリコリとした「しこり」があり、乳頭から膿が出ていた、という犬が来院しました。雌犬ならば真っ先に乳がんを心配するのですが、今回は雄犬です。皆さんはこのように考えますか。

しこりを見つけた場合、まずは細胞診（細胞の検査）を行います。細胞を見ることで、そのしこりがどんなものなのか、どのような治療を行う必要があるのかをある程度絞ることが出来ます。

細胞診を踏まえ、外科手術で乳頭部分のしこりを切除し病理検査を行ったところ、しこりは乳がんと診断されました。実は雄犬にも

気付きにくい雄犬のがん



雄犬の乳頭部分に見つかったしこり

乳がんがあるのです。

雌犬の乳がんは犬にとって最も一般的ながんの一つであるため、飼い主さんに広く理解が深まり、早期発見、早期治療できる場合が多くあります。それに対し、雄犬の乳がんは雌犬の乳がんの発生率の1%以下ともいわれているた

乳頭・陰のう状態を確認

め、普段見聞きする機会がありません。雄犬と乳がんが飼い主さんの中で結び付きにくいいため、発見や治療が遅れがちになる点が懸念されています。

一方、雌犬の乳がんと同様に、早期に治療ができた場合は雄犬の乳がんも完治が見込める場合が多

きで存在します。精巣がんの場合、明らかに左右の大きさや硬さが異なってくることが多いため、定期的に陰のうを優しく触り、左右の精巣の大きさや硬さを確認するのが良いと思われま

また、精巣が腹腔内や皮下に留まり、陰のうに降りていない「潜

いとされています。

もう一つ、特に去勢手術を受けていない雄犬の乳腺の変化で気を付けたいのは「雌性化乳房」です。字のごとく、雄犬であるのに乳房や乳頭が膨らんできたり、乳汁が出る状態を指します。

主に体内での女性ホルモン（エストロゲン）の過剰が原因なのですが、去勢手術をしていない雄犬の場合、精巣の機能が原因であることが多いといわれています。正常な犬の精巣は陰のうの中に二つ、ほぼ左右同じ大

「在精巣」の場合、陰のうに降りていない精巣は、正常な精巣に比べて10〜20倍も腫瘍になる危険性が高まります。陰のうに精巣が二つ降りていない中高齢の雄犬の乳腺が膨らんできた場合、真っ先に精巣のがんを疑う必要があります。

あまり注目されない雄犬の乳腺ですが、その変化は大きな病気のサインかもしれません。乳腺の病気が決まって雌犬特有のものではないのです。